

グループ討議

テーマ：「令和13年度以降も13小学校を存続させることについて」

作業	時間	内容	
導入・説明	3分	学校の小規模化が進む中、将来を担う子どもたちの教育環境として、13校を存続させることについて、メリット・デメリットをあげていただき、存続させることの課題等について共有する。	
グループ討議	30分	5分	「行政」、「子供」、「保護者」、「地域」の4つの視点から、存続のメリット・デメリットについて付箋に書きだす。 青：メリット（良い点、期待すること） 赤：デメリット（不安な点、課題）
		20分	【意見交換】 付箋を出し合いながら、グループ討議を行い、グループで出た意見をまとめる。 ・メリット（良い点・期待すること） ・デメリット（不安な点、課題）
		5分	グループまとめ
グループ発表	9分	3グループ×3分	
全体討議	20分	協議のまとめ 見つかった課題の共有	

グループ協議課題：「令和13年度以降も 13小学校を存続させることについて」

(グループ)

視点	メリット	デメリット
<p>行政 (教育環境の整備、財政運営、公共施設の配置など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりに目が行き届くことで、学力の向上や学習意欲の支援がしやすくなる。 ・教員の負担軽減により、子供と向き合う心と時間のゆとりを確保できる。 ・教員が個々の状況を詳細に把握できるため、いじめや不登校などの課題に対して、迅速かつきめ細かな対応が可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県費負担教職員の適正配置が困難になる。 ・複式学級解消支援員の定数確保及び人件費の増加 ・施設老朽化対策予算が分散し、設備更新が遅れる ・維持管理経費 ・子供一人当たりに係る経費が大きくなりやすい。
<p>子供 (学習環境、集団活動、通学負担、多様な交流など)</p>		
<p>保護者 (教育の質、PTA活動、安全面、家庭の負担など)</p>		
<p>地域 (地域コミュニティの維持、防災拠点、伝統行事の継承など)</p>		